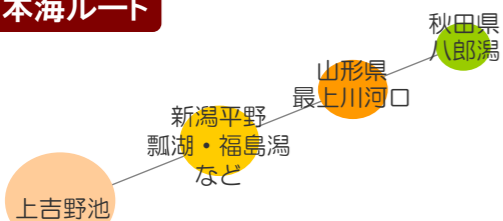


海を渡って3000⁺の旅

コハクチョウの繁殖地は、北極海に面したロシアのツンドラ地帯で、毎年10月ごろから日本へ渡ってきます。秋にシベリア北部を飛び立ち、オホーツク海を渡って北海道の中継地へ。さらに東北の湖沼・湿地を通り、日本海側を南下する群れは新潟平野を中心に越冬します。太平洋側では宮城県・福島県さらに関東平野の越冬地へ南下してゆきます。

日本海ルート



日本海ルートで南下するコハクチョウは、秋田県の八郎潟、山形県の最上川河口などを中継して、大部分は新潟平野にとどまりますが、一部はさらに南下し、上吉野池に飛来して越冬します。

コハクチョウの飛来ルート



上越地域最大の飛来地に

初めて上吉野池にハクチョウたちが訪れたのは、1999年の冬、70羽余りの小さな群れでした。当時は、まだ上吉野池は銃猟可能で、ハクチョウがいる近くで銃声がかかることもしばしば。そこで周辺地域の皆さんがハクチョウを守ろうと運動し、2001年には上吉野池及び周辺の水田が新潟県の特定猟具使用禁止区域に指定されました。

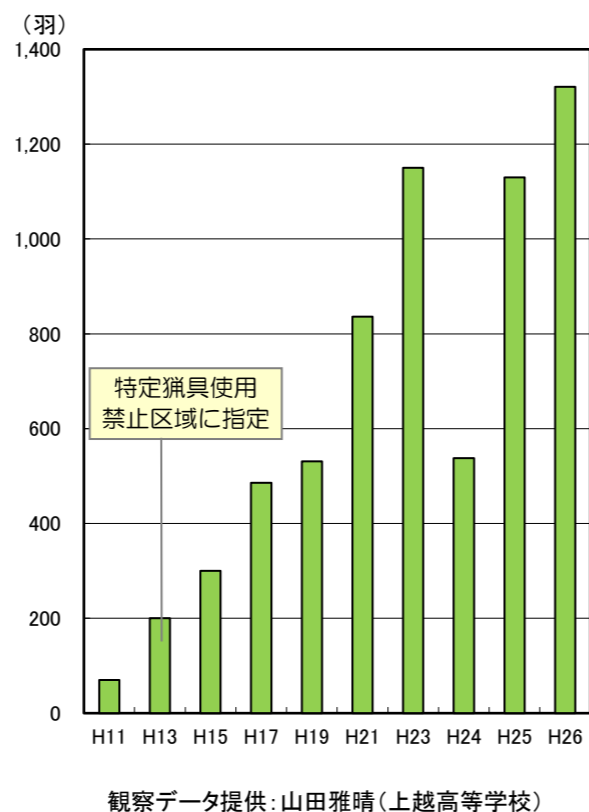
こうして、ハクチョウたちにとって安心して利用できるねぐらが確保できるようになった結果、2001年冬には上越地域におけるハクチョウたちの拠点が犬伏区・朝日池から上吉野池に移り、上越地域最大のハクチョウ飛来地となりました。

※1 大雪の年は、食物を求めてさらに南下して越冬します。

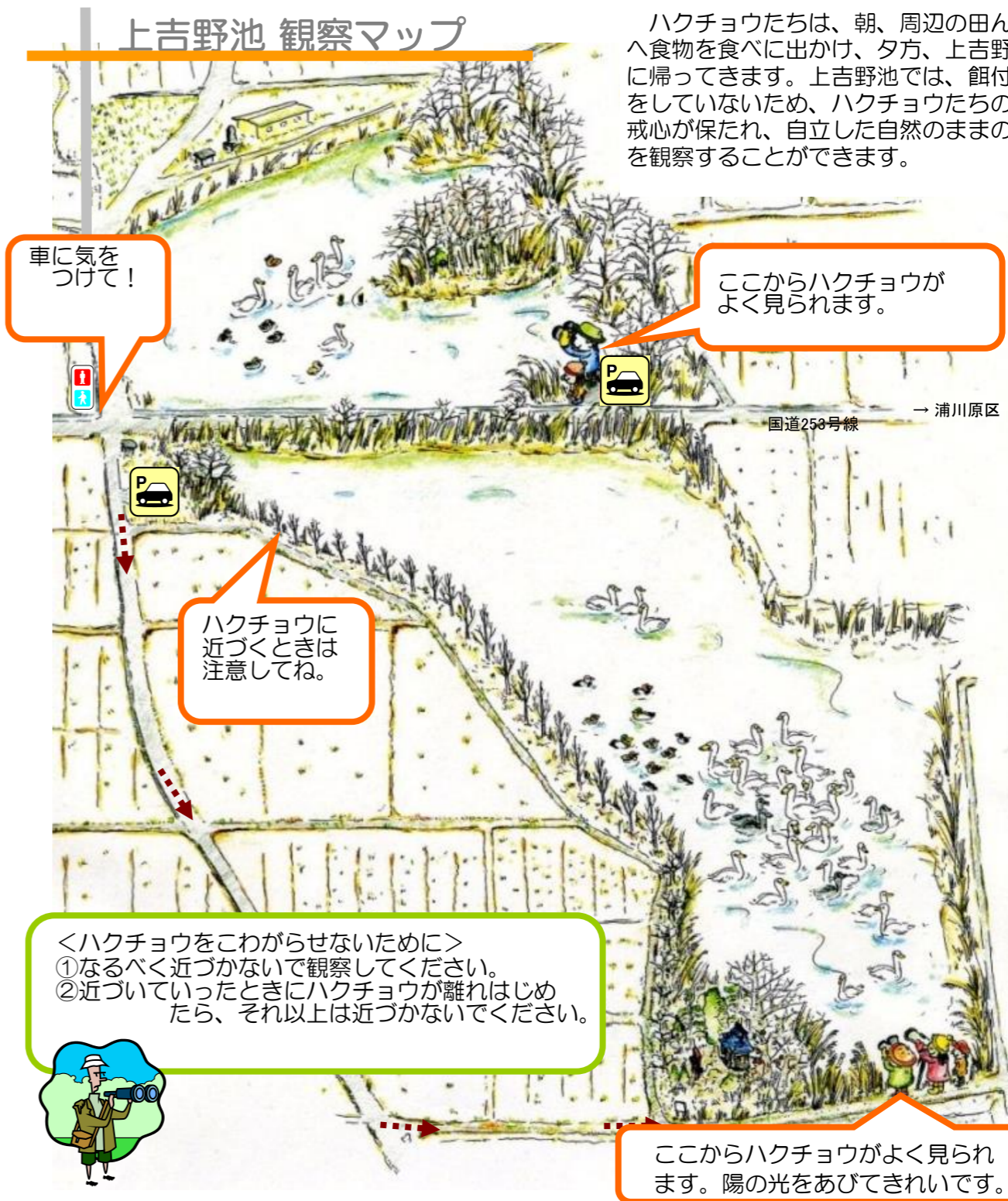


上吉野池にくる仲間が年々、増えているよ！

上吉野池へのハクチョウ飛来数の推移



上吉野池 観察マップ



ハクチョウたちは、朝、周辺の田んぼへ食物を食べに出かけ、夕方、上吉野池に帰ってきます。上吉野池では、餌付けをしていないため、ハクチョウたちの警戒心が保たれ、自立した自然のままの姿を観察することができます。

<ハクチョウをこわがらせないために>
①なるべく近づかないで観察してください。
②近づいていったときにハクチョウが離れたら、それ以上は近づかないでください。



見分けられるかな？
上吉野池では、コハクチョウとオオハクチョウが見られます。見分けるポイントは、体の大きささくちばしです。

オオハクチョウ コハクチョウ

くちばしの黒が <多いタイプ> <少ないタイプ>

群れは、家族単位が基本
ハクチョウは、両親とその子どもたち（多いときで5~6羽）からなる家族単位で行動します。そして、いくつもの家族が集まって群れとなります。

ハクチョウの子どもは、初夏にシベリアで孵化し、秋には親とともに南下をはじめ、日本各地で越冬します。春に北上し、翌年の繁殖期前に親離れをします。親離れをした若い鳥同士は数年間行動をともにしながらパートナーを探します。